



報道関係者各位

軽井沢現代美術館2021年の展示企画をお知らせいたします。詳しくは広報担当までお問い合わせくださいませ。

1F常設展示室 4月29日(木)～11月23日(火)

海を渡った画家たち

【概要】

昨年来、世界中が未曾有のウイルス蔓延という危機に見舞われる中、アート業界に及んだ影響も決して少なくありませんでした。開催が危ぶまれる展覧会や、発表の場を奪われたアーティストたちの姿は、安全に作品を鑑賞するための工夫、デジタル化の拡充といった進歩を遂げるためのリソースとなりました。

作品と人との新しい関わり方に前向きな様相を感じる一方で、非常時の渦中においては特に、「芸術は不要不急か否か」という問いは常に私たちに投げかけられています。

今回はその手がかりを、当館所蔵の作家たちの作品に求めてみたいと思います。

「具体」や「もの派」をはじめとする日本の戦後美術は今でこそ各国で評価を得ていますが、彼らが筆を握った当時は欧米至上主義の傾向が根強く、苦勞が絶えなかったと言います。

中でも祖国を離れ、外国へ活動の場を求めた「海を渡った画家たち」は、圧倒的マイノリティの立場に屈することなく眼の前のキャンバスにただひたすら向き合いました。

西洋の真似事ではない日本人としての現代美術を生み出すため、アーティストたちは厳しい社会情勢や差別、望郷の念を創作の糧にしていたのかもしれませんが。

彼らの辿った道のりは生き生きとした作品へと投影され、現代の若手作家たちへと形を変えて受け継がれています。

今まさに世界が直面している事態は、かつての画家たちの体験した苦悶の時代とはかけ離れた状況です。

しかし遠い異国の地で各々が葛藤や焦燥感を抱きながらも生み出した力強い作品と向き合い、そっと感情を重ね合わせることで、苦勞を乗り越えた先の未来が見え、得られる勇気があるのではないのでしょうか。

本展では、草間彌生の新作セラミックや、「もの派」の代表的作家として日本現代美術の変革に大きな功績を築いた関根伸夫の作品を始め、約20名の作家による作品を展示いたします。

アートの持つ普遍的な「力」を感じていただけましたら幸いです。

● 出展作家

青木野枝、今井俊満、金沢健一、川俣正、鬼頭曄、草間彌生、佐藤敬、白髪一雄、菅井汲、関根伸夫、田中敦子、堂本尚郎、奈良美智、東恩納裕一、眞板雅文、前川強、宮島達男、元永定正、ロッカクアヤコ(五十音順) 他



「91 h.dec 1991」

1991年 キャンバスにアクリル 90×72cm
田中敦子



「1つの中の8」

1987年 金箔 92×72cm
関根伸夫



「1959-12」

1959年 キャンバスに油彩 145.5×112.1cm
堂本尚郎

掲載ご希望の方は広報へお問い合わせください。

海画廊(軽井沢現代美術館 東京事務所)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1 三省堂書店神保町本店4階

TEL/FAX 03-3233-3359 E-MAIL info@umigallery.net (広報担当:稲村・丸山)



2F企画展示室 4月29日(木)～11月23日(火)

Collector's Eye 一名和晃平

【概要】

輝くマイクロビーズが表面を覆う立体作品、画面上をインクが重力に従って真っ直ぐに滴る平面作品「Direction」、彫刻の表面を細かな絨毛が埋め尽くす「Velvet」シリーズ。今回展示いたします作品は全て、個人コレクターの方々のご厚意でお貸しいただいたプライベート・コレクションです。

最先端の素材や技術を用いて空間そのものをデザインするマルチな表現により、これまでにない現代彫刻の可能性を展開するアーティスト、名和晃平。ファッションや建築、音楽など多方面のクリエイターとの共作も多く、アートのフィールドを超えて広く認知されています。

私たちが普段目にする物質を、一度点や粒子といった微細な「Cell(細胞)」へと還元させ、再び増殖・反復のエネルギーを加えることによって、感覚を麻痺させるような造形へと再構築する。

森羅万象をつかさどる細胞を視覚的に操り、「実像と虚像」、「物体と生命」、「連続と流転」などの抽象的なイメージを可視化するプロセスから生まれる美しい作品の数々は、世界中の芸術愛好家から熱い眼差しを向けられています。

私的に蒐集された作品のみで構成される本展では、造形への嗜好やこだわりをいっそう強く感じ取ることができるのではないのでしょうか。

展示室の照明の下で様々な表情を見せる作品は、来館者の観賞の対象であると同時に、所蔵者にとっては空間的・精神的に密接な関わり合いを持った、いわば日常を共にするものなのです。

幾多の美術作品の中からコレクターたちの視点によって選び抜かれた作品の数々を、どうぞゆっくりご覧くださいます。

この場を借りて、作品を快くお貸しくださった方々に深く御礼申し上げます。

●出展作家

名和晃平



「Trans-White Deer」
2017年 ミクストメディア 80×59.4×54.6cm
名和晃平
photo: Nobutada OMOTE | SANDWICH

掲載ご希望の方は広報へお問い合わせください。

海画廊(軽井沢現代美術館 東京事務所)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1 三省堂書店神保町本店4階

TEL/FAX 03-3233-3359 E-MAIL info@umigallery.net (広報担当:稲村・丸山)